

生徒の社会的事象に関する関心を高めるとともに、課題に対して多面的・多角的に考え、自分の意見を持ち、表現する力を育む

宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校  
教諭 藤本浩幸

## 1 はじめに

本校は、都城市に位置し、西は霧島山、東は鱈塚山に囲まれた広大な都城盆地の中で、自然に恵まれた教育環境にある。

本校は、来年度で創立 120 年を迎える、歴史と伝統を誇る都城泉ヶ丘高等学校の附属中学校として、平成 22 年度に開校し、6 年間の中高一貫教育に取り組んでいる。

本校の教育方針は、建学の精神である「質実剛健」のもと、すべての教育活動において生徒に自ら思考、判断、行動させ、体験を通じた学びを運動（応用）させる指導に重点を置いている。実社会との関わりを幅広く学習する中で、自然科学に関する事象への旺盛な探究心や高い科学的洞察力を備えた人材、さらに郷土の産業や医療の中核となる人材の育成を目指し、体験活動を取り入れたさまざまな特色ある教育活動を展開している。



医師会病院体験（1年生）

## 2 本年度の取組

(1) 実践事例Ⅰ「新聞閲覧コーナー」〔対象：中学1～3年生 120名〕

### ① 目的

- 日々の新聞を閲覧できる場を設置することで、生徒に新聞に対して興味・関心をもたせ、身近な情報源として新聞を手にとって読める場とする。

### ② 取組方法

- 各学年の教科連絡係の生徒が輪番制で、毎朝、新聞を閲覧場所に設置する。
- 閲覧コーナーは、全校生徒が利用する教室棟階段横のエレベーターホールを利用する。
- 前日分の新聞は、閲覧コーナー内の新聞ストックボックスに収納し、一定期間自由にとって読めるようにする。

### ③ 取組の実際

近年、生徒の中には新聞を定期購読していない家庭がある。また、定期購読していても、新聞を読まない生徒もいる。このような現状を踏まえ、まずは、生徒たちが日常的に新聞に触れる場をつくり、紙面に目を通していく環境を整備していくことから始めた。

設置当初は、素通りする生徒が多く、閲覧者が予想していたよりも少なかったため、各学年の授業時間に新聞記事を用いて話していく時間もつくった。



新聞閲覧コーナー



(2) 実践事例Ⅱ「新聞スクラップ」〔対象：中学1～3年生 120名〕

### ① 目的

- 新聞の中から気になる記事を切り抜かせて、ワークシートにまとめることで、要旨を要約する力を身に付けさせるとともに、自分の考えを人に伝えるための表現力を身に付けさせる。

### ② 取組方法

- 毎週の週末課題として、生徒はその週の新聞（NIE用新聞・家庭の新聞）から1つの記事を選んで、ワークシートにのり付ける。

- b 選んだ新聞記事を150字程度で要約する。
- c 選んだ新聞記事に対する自分の考えを200字程度でまとめる。

③ 取組の実際

新聞記事については、ジャンル等は限定せずに自由にして、生徒の取り組みやすさを考慮した。この取組を始めると、新聞閲覧コーナーに集まる生徒たちが増え、真剣な顔で新聞の隅々まで読み、気になる記事を選んで切り取り、新聞記事をクリアファイルにストックしていく生徒が徐々に増えていった。

新聞記事についての意見をまとめる欄は、友だちや家族と意見交換をすることで、その記事の内容についてじっくり考えたり、考えがさらに深まったりした生徒たちも多く見られた。

3年 組 番 氏名			
新聞名	朝日新聞	掲載日	2019年1月13日
<h2>新聞記事</h2>			
*記事の要約(自分の言葉で記事内容をまとめよう)			
<p>朝日新聞社による世帯調査で50%が自分の孤独死が心配と答えた。現在一人暮らしの人の割合は67%が心配と答えた。老後に家族が頼りになる人と頼りにない人は28%と44%と割れた。また、老後に一人暮らしになる時、家族以外に頼りにない人が13%と女性に10%に比べて男性は16%と多かった。</p>			
*記事を読んで考えたことや意見(友だちや家族と意見交換しながらまとめよう)			
<p>「今の日本は高齢化社会だ」と言われても私も実感もわかんない。でもこの記事を読んで、みんなも孤独死が心配している人が多いのだと思う。日本の高齢化が進むとどうなるか。老後に家族が頼りになる人と答えた人、一人暮らしをした時、家族以外に頼りにない人がいると答えた人の多さから、孤独死の問題は深刻化していると思う。また、将来介護を受けるために住むために地域を離れることに抵抗がある人、この課題の解決は難しいのだと思う。</p>			

3年 組 番 氏名			
新聞名	官報	掲載日	2019年1月11日
<h2>新聞記事</h2>			
*記事の要約(自分の言葉で記事内容をまとめよう)			
<p>医師の残業時間の上限が年2000時間に下げ、19月160時間の残業時間と過労死の2倍の時間である。夜間や用務期を担い、高度のケア治療専門技術を提供し、1737機関が特例の対象である。医師不足を克服し、11。</p>			
*記事を読んで考えたことや意見(友だちや家族と意見交換しながらまとめよう)			
<p>過労死の2倍の残業時間と聞くととてもびっくりした。また、これほど医師が不足しているという状況に不安を覚えた。救急病院の医師の残業時間を示すのが2倍近く、人手を減らしてほしいと思う。長い時間仕事をし、つらいときは救急の患者が来たり、どうでもいらい、飯を取らなくていい、私はあまり任せてほしい。医師を減らすには、医師という仕事に興味をもつ子どもを育てることが大切だ。このためにも講演会を開くなどして、子供に伝えたい。これより医師が増えることを願う。</p>			

**【生徒の感想】**

- もともと、毎朝新聞をじっくり読むことがすごく楽しくて、学校から帰ったら他社の新聞も朝と同じように読んでいます。自分の考えや、周りの人と話し合って意見を書くことで、記事の内容や社会の状況についてより深く考えることができるようになったと思う。
- 新聞は難しい内容のものもたくさんあるけど、2つの新聞を比べたり、「〇面、〇面に関連記事」とか書いているところを読むことで、父との会話が盛り上がるようになった。
- 目にとまった記事について、自分は賛成か反対か、喜ぶべきことか悲しむべきことか、自分なりの考えをもつようにしている。
- 読んだ記事を要約するため、1回でなく2～3回とより深く読むことが多いので、内容がきちんと理解できた。

(3) 実践事例Ⅲ「天声人語書き写し」〔対象：中学1～3年 120名〕

① 目的

- ・ コラムを読むことを通して、時事問題に興味・関心をもち、社会性を育てる。



- ・ 内容を読み取る力と要約する力を身に付ける。
- ・ 語彙力を高める。

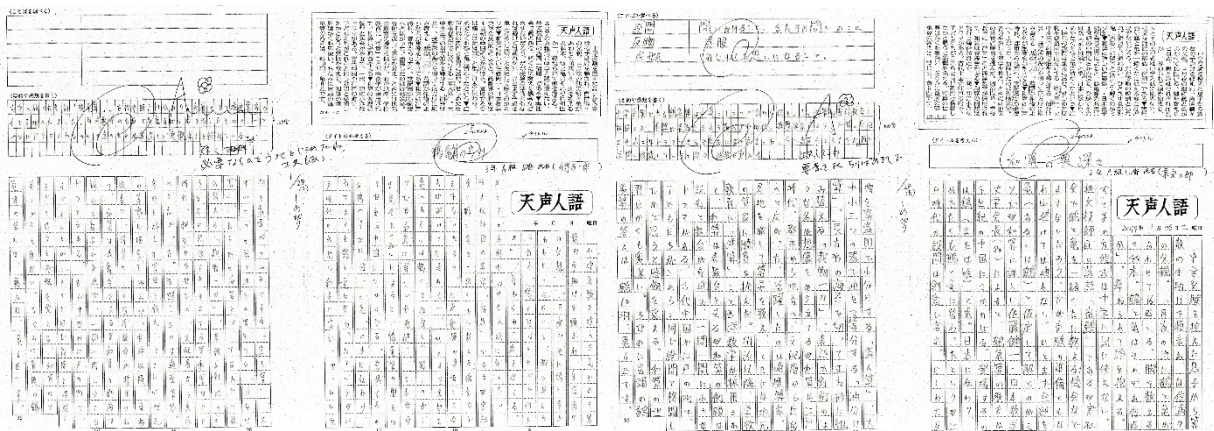
## ② 取組方法

- 毎週末に、その週の朝日新聞「天声人語」から1編を選んで生徒にプリントして示す。
- 生徒は週末課題として、全文を書き写し、タイトルを付け、100字要約をして週明けに提出する。
- 国語教科担当が評価し、提出した週のうちに返却し、同時に教科担当が作成した要約例も配付する。
- 生徒は評価と要約例をもとに、自分の要約を再度見直す。

## ③ 取組の実際

4月14日(土)の週末から始まり、1月26日(土)の週末までで、計35回を数えている。地道で手間のかかる取組であるが、社会性と人間としての教養を培ってほしいという願いで取り組み続けている。教科担任は120名分を毎週評価しなければならないため、少々大変ではあるが、取り組み続けて、生徒の変容が少しずつでも見られればやった甲斐はあると思う。

国語力を高める特效薬はなかなかないが、こうした日々の活動で、5年後、10年後といった長いスパンで考えたときの「国語力」が身に付いていけば、と願っている。



### 【生徒の感想】

- 要約力が付いてきた気がする。
- 大切なところを見つけられるようになった。
- 文章力やまとめる力が、始めたころより付いてきたと思う。
- 要旨を抜き取るコツが分かってきた。語彙力も付く。
- ニュースに対する筆者の意見が多く書かれているので、世の中の流れが分かりやすく、天声人語で取り上げられたニュースがテレビやラジオで流れてきたら、自然と耳に入るようになったので、政治や経済により一層興味をもつようになった。
- 天声人語では、いろいろな社会の問題や話題がテーマになっていることが多いから、天声人語1つでそのテーマのことについて詳しく知ることができるから良いと思う。写しは、文の構成やどのように書けば良いのかが分かる。要約することで、まとめる力もどこが重要でどこを捨てて良いのか見極める力が付いたと思う。小学校のときも個人的に天声人語の書き写しをしていたが、今は先生のアドバイスや花丸とかが付いているからすごく嬉しい。

## (4) 実践例Ⅳ「新聞の社説比較」〔対象：中学3年生 40名〕

### ① 目的

- ・ 一つの話題に関する複数の文章を読み、視野を広げる。
- ・ 説得力を持たせるための論の展開の仕方や、例の用い方を学ぶ。

### ② 取組方法

- 国語3年「新聞の社説を比較して読もう」の単元の際に、同じテーマで異なる論調の社説を選び、比較して読む。

b 各社の主張と、その主張を伝えるためにどのような工夫がなされているか、意見交換をする。

③ 取組の実際

今回は、「日露首脳会談（9月）」と「沖縄知事選告示（9月）」の2編の社説を取り上げた。新聞社により視点がかかなり違ったため、生徒たちは自分が見聞きするものによって価値観が左右されることを学ぶことができた。また、即断するのではなく、できるだけ多くの情報を手に入れた上で判断する必要があることも理解できたようである。

(5) 実践例V「わかりやすく説明しよう——小学校を紹介する新聞をつくろう」〔対象：中学1年生40名〕

① 目的

- ・ 説明する目的・対象を明確にし、観点を立てて情報を収集・整理する。
- ・ 新聞の構成を知り、収集・整理した情報を新聞にして発信する。

② 取組方法

- a 国語1年「分かりやすく説明しよう」「情報の集め方を知ろう」「新聞の紙面構成の特徴を知る」の三つの単元を一つにまとめ、「出身小学校をみんなに紹介する」という言語活動をゴールとして取り組む。
- b 情報収集の仕方や新聞の紙面構成、キャプション、リード文、タイトルの付け方などの説明を聞いた後、出身小学校22校に別れ、新聞作成の計画を立てる。
- c 生徒は休日を利用して出身小学校の写真撮影やインタビューなどに取り組み、「新聞用原稿用紙」1枚～3枚程度にまとめる。
- d 夏休みの小学校訪問で教師が出身小学校に届ける。

③ 取組の実際

受験をして広範囲の小学校から集まっているため、出身小学校を紹介するという活動を取り入れることで、互いを知るといよいよ機会になった。また、出身小学校の先生方に連絡を取り、インタビューや写真撮影に伺うことで、近況報告も行えた。さらに、仕上がった新聞を各小学校にお届けしたところ、大変喜ばれた。



小学校紹介新聞

3 成果と課題

【成果】

- 新聞を活用した学習に取り組むことで、生徒たちは日常的に新聞に触れる機会が増え、国内外での出来事を知る情報源の1つになった。
- 世の中の出来事に興味・関心をもつ生徒が増え、日常会話の中で時事問題について生徒同士で意見交換をしている姿を目にするようになった。
- 新聞記事を要約したり、記事に対する自分の考えを書いたりすることで、語彙力・読解力・表現力が身に付くため、各教科の学習にも生かされた。
- 日常的に生徒が提出したワークシートについて教師間で情報交換することが増え、生徒理解に大いに役立った。

【課題】

- 本年度が実践初年度であったため、先を見通した計画的な取組があまりできなかった。
- 各教科ごとの取組になり、教科横断的な取組がなかった。次年度は取組の幅を広げていけるよう、新聞の活用を模索したい。